

会 議 録

名 称	北九州市都市再生整備計画事業事後評価検討会
議 題	黒崎副都心地区
開催日時	平成24年12月13日(木)
開催場所	北九州市役所 15階 特別会議室B
出席者	北九州市都市再生整備計画事業事後評価検討会 構成員 座長 寺町 賢一 (九州工業大学大学院 工学研究院 建設社会工学研究系 准教授) 牛房 義明 (北九州市立大学 経済学部 経済学科 准教授) 東 恭子 (第10期 北九州ミズ21委員会 委員) 横田きみよ (コンセプトピディア 代表) 事後評価担当(事業課) 建築都市局 都心・副都心開発室 検討会事務局 建築都市局 事業調整課
議事内容	1 開会の挨拶 2 座長、構成員の紹介 3 事後評価制度の概要説明 4 議 事 (1) 当該地区について説明 「まちづくりの経緯説明」「事後評価手続き等」「今後のまちづくり」について (2) 事後評価手続き等にかかる検討 (3) 今後のまちづくりについて検討 5 事後評価検討会後のスケジュール 6 報告事項 7 閉会の挨拶
構成員の 主なご意見	事業課より、当該地区のまちづくりの経緯、事後評価手続き等、今後のまちづくりについて一括説明 事後評価手続き等にかかる検討 牛房 構成員 整備方針概要図において、中心市街地活性化基本計画(以下、中活計画)エリア内に都市再生整備計画(以下、都市再生)の事業がほぼ入っていますが、都市再生エリアが中活計画エリアに合致していないのはなぜですか。 また、都市再生エリア内で中活計画の事業も実施されていますが、それぞれどのように評価するのですか。

事業課

エリアについては、都市再生が先にエリアを設定し、その後、中活計画を設定した経緯があります。中活計画でも当初、都市再生と同じエリアを想定していましたが、地元の意向も踏まえてよりコンパクトなエリアを設定したものです。

都市再生と中活計画の評価の分け方については、成果指標が都市再生と中活計画は異なっています。項目が同じでも測定ポイントや対象区域が異なるほか、中活計画では小売業販売額や空き店舗率の指標を加える等、商業寄りの指標の設定となっています。

牛房 構成員

中活計画エリアより南側で都市再生の事業はなかったのですか。

事業課

南側については、民間の戸建開発や商業施設整備等、民間事業が主でした。

横田 構成員

効果発現要因の整理について、事業の中に「賑わいづくり」とありますが、交通の便が良くなっただけでは賑わいが形成されたいと思いません。商店街のイベント、まちコンなどの効果もあると思いますが、これらに対する評価や効果が見えないので、加筆された方がよいのではないかと思います。

また、成果の評価について、地元の歴史や文化を踏まえた図書館が整備され、とても魅力的ですが、評価に見えてこないのが残念に思いました。

寺町 座長

構成員の意見に関して、今回の事後評価に反映できる部分は反映し、無理なものは次期計画に反映する等、うまくフィードバックし、活かしていただきたいと思えます。

東 構成員

数値目標の設定は基準が難しいと毎回感じています。本計画の目標値は全て達成されており、良い結果になっていると思います。しかし、事業の効果については、数値にしづらい部分が多いのではないのでしょうか。当事業で整備されたホールや図書館周辺は非常にきれいになっており、平日の昼間でも人が多いようです。施設ができたことはよかったですと思いますが、黒崎駅や商店街とそれらの施設が分断されているような感じがします。商店街は民間事業者が主なので、難しいとは思いますが、民間の力もあわせ、一体感を持って、発展できるのが理想的だと思います。

また、ひびしんホールのイベントをホームページで調べられないことがあり、残念に思いました。もっと、いろいろな人に知っていただきたいと思えます。もっといい気がします。

寺町 座長

一体感については、歩行者通行量で検証できるのではないかと思います。仮に、通行量が商店街で増えていないのに、ホール周辺だけ増えていけば、分断されていることになるのではないのでしょうか。活性化に対する実感が数字と異なる材料として使えると思えます。今回の事後評価には難しいと思えますので、次期計画でフィ

ードバックしていただければと思います。

広報の話はかなり大事で、少しの工夫で改善できますので、しかるべき担当に意見として伝えていただければと思います。

事業課

ひびしんホールは指定管理者制度を取っており、現在はホームページも立ち上げられています。当ホールと筑豊電鉄でチケット提携をする等の取組みも行われています。ホールと商店街が分断しないよう、回遊性向上研究会を設置し、毎月1回のペースで会議を実施しているところです。ホールは7月にオープンしたばかりで、基礎データは揃っていませんが、次期計画にはフィードバックしていきたいと考えます。

本日のご意見を踏まえ、効果発現状況について、加筆したいと思います。

寺町 座長

「商店街にぎわいづくり支援事業」の内容はどのようなものですか。また、指標改善への貢献度が全ての指標で「 」になっていますが、それでよいのでしょうか。

事業課

評価が厳しすぎたかもしれません。指標2は「 」で修正したいと思います。

横田 構成員

指標2の歩行者通行量に商店街のイベントが影響していないということですか。

事業課

イベントがある時は、通行量が多いのですが、日常的には減少傾向が続いています。

横田 構成員

賑わいづくりに効果はあるが、商業としての魅力がないということですか。

事業課

商店街の客増加にはつながっていないということです。

横田 構成員

貢献度については、賑わいをどう見ているかによります。地域の活性化という意味も含まれば、「 」のままでよいのかもしれませんが。

事業課

イベントは商店街の魅力向上には貢献していますが、商店街の活性化にはつながっていません。歩行者通行量調査はできるだけイベントの時期を外して、調査を実施しています。

横田 構成員

地域の活性化という点で効果がなかったことを今後の課題として、次の取組みにつなげる等、総合所見等の書き方を変えた方がよいのではないのでしょうか。

事業課

「商店街にぎわいづくり支援事業」は、平成 20～23 年度で実施され、黒崎 9 6 (クロ) の日や黒崎コレクション等のイベントを実施しました。今年度は実施していません。事業に関しては、今年度は「 」ですが、「 」でもいいのかと思っています。

寺町 座長

ご意見を聞いていると、「 」のままでもよい気がしてきました。瞬間的でも効果があったとポジティブにとらえれば「 」ですが、日常的にはなかなか効果は発現しにくいと思います。

事業課

イベントをやれば集客はありますが、定着するほどではありません。イベントをやりつつ、店舗が個々に魅力を発信する必要がありますが、実際は店そっちのけでイベントをやっているようです。

寺町 座長

イベントの継続と日常の活動を問題点として整理すればよいのではないのでしょうか。

横田 構成員

お祭りだけでなく、一方で店の魅力を発信する、例えば、一店舗一品など違った工夫を考えることが必要だと思います。課題の視点を明確にされた方がよいと思います。

牛房 構成員

市民からの意見うち、地元（黒崎）の意見がどれくらいかは把握していますか。

事業課

地元の方が多いと思います。黒崎に来たことがある等、黒崎を知らない人ではないと思います。

寺町 座長

「住民の意見」で、「商店街のサビレ」と原文のままカタカナになっていますが、国に提出する書類として、このままでいいのでしょうか。

事業課

(原文のままであったため、漢字に直す(「サビレ」「寂れ」)こととした)

今後のまちづくりについて検討

寺町 座長

今後のまちづくり方策で、「安全・安心・快適で美しい市街地の形成」とありますが、問題点等の指摘がなかったのに、なぜ最初にこれが出てきたか、脈絡がないような気がします。

事業課

これまで、バリアフリーや夜の安全性に配慮し、ペDESTリアンデッキ整備、歩道の改良、照明設置等を行ってきましたが、まだ整備していない部分があるため、今後も事業を継続していきたいということで、記載しています。

牛房 構成員

事業によって発生した新たな課題で、バイパスが整備されたことにより、黒崎を通らず、東田や小倉へ行ってしまうことについて記載されていますが、指標2の貢献度は「 」にするより、「×」にした方がいいのではないかと思います。効果はあったと思いますが、歩行者通行量にとっては、マイナスだったのではないかと思います。

事業課

バイパス整備により、黒崎地区内の渋滞が緩和されたことで、バス運行の定時性が改善される等、アクセシビリティの向上には繋がっています。一方で、これまで公共交通機関で黒崎に来ていた人が車で小倉へ行ってしまいうということもあり、手放しでは喜べないというところで、新たな課題に記載しています。

牛房 構成員

分かりました。

回遊性については、歩いてきた人を中心に評価していますが、車で来る人も多いと思います。車で来た人の状況は把握していますか。また、指標として検討する余地はありますか。

事業課

ひびしんホールの来場者にアンケートしたところ、半数は車で来ているようです。黒崎は、駐車場が多く、料金もリーズナブルなので、車で来られることも魅力の一つだとは思いますが、市としては低炭素のまちづくりを目指しているため、公共交通機関でのアクセスを奨励したいところですので、指標に入れることは難しいです。

寺町 座長

歩行者通行量については、断面の総量だけではなく、可能であればどこからどこへ動いているかを把握できるとよいと思います。全数とは言いませんが、サンプルで構わないので、調査されるとよいと思います。

事務局

寺町座長から、効果発現要因の整理の指標改善への貢献度が全て「 」でもよいのかというご意見について、事業課で判断した結果なので、手続き上は、問題ありません。ただ、ご意見にあったように、こういう視点から見れば「 」ではなくて

「 」になるのではないか等、見直す必要があると思います。

横田 構成員

可能であれば、来街者ヒアリングやアンケートをしていれば、今後のまちづくり方策・課題に加筆してはいかがでしょうか。次期計画では、ソフト事業を実施するだけでなく、定性的な効果を定量化できると思いますので、そういう視点も踏まえたまちづくりの方策を検討していただければと思います。

寺町 座長

定量でいくか、定性でいくかは扱うものによって異なりますし、ソフトといても、いろいろな切り口でアクセスできると思うので、多面的に、いろんな視点で見る必要があるというご意見だったと思います。本日の意見を踏まえて、可能な範囲でフィードバックをしていただきたいと思います。

寺町 座長

それでは、色々なご意見を頂きましたが、黒崎副都心地区の事後評価手続きについて、適切に実行されたということによろしいでしょうか。

構成員一同： 了解

寺町 座長

次に、今後のまちづくり方策について、妥当であると認めてよろしいでしょうか。

構成員一同： 了解

寺町 座長

ありがとうございました。

それでは、ご異議がなければ以上をもちまして黒崎副都心地区の議事を終了致します。

事業課

ありがとうございました。

会 議 録

名 称	北九州市都市再生整備計画事業事後評価検討会
議 題	曽根地区
開催日時	平成24年12月13日(木)
開催場所	北九州市役所 15階 特別会議室B
出席者	<p>北九州市都市再生整備計画事業事後評価検討会 構成員</p> <p>座長 寺町 賢一 (九州工業大学大学院 工学研究院 建設社会工学研究系 准教授)</p> <p>牛房 義明 (北九州市立大学 経済学部 経済学科 准教授)</p> <p>東 恭子 (第10期 北九州ミズ21委員会 委員)</p> <p>横田きみよ (コンセプトピディア 代表)</p> <p>事後評価担当(事業課)</p> <p>建築都市局事業調整課</p> <p>検討会事務局</p> <p>建築都市局事業調整課</p>
議事内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会の挨拶 2 座長、構成員の紹介 3 事後評価制度の概要説明 4 議 事 <ol style="list-style-type: none"> (2) 当該地区について説明 <p>「まちづくりの経緯説明」「事後評価手続き等」「今後のまちづくり」について</p> (2) 事後評価手続き等にかかる検討 (3) 今後のまちづくりについて検討 5 事後評価検討会後のスケジュール 6 報告事項 7 閉会の挨拶
構成員の 主なご意見	<p>事業課より、当該地区のまちづくりの経緯、事後評価手続き等、今後のまちづくりについて一括説明</p> <p>事後評価手続き等にかかる検討</p> <p>寺町 座長 ご説明ありがとうございました。それでは、早速、事後評価手続き等にかかる検討に移りたいと思います。まずは、事後評価シートの事業の成果について、お気づきの点、ご指摘等がありましたらお願いします。</p> <p>寺町 座長 指標2のその他の指標「昼間人口」の評価値が1,800人になっていますが、この数字は積み上げてぴったりになっているという理解でよろしいのでしょうか。というのは、他の指標の数値を見ると有効数字が5桁あるのに、ここだけがすごく丸まっている気がします。</p> <p>事業課 昼間人口については、各施設のホームページやヒアリング等により確認した数値</p>

で、実際にカウント調査は行っていませんので評価値としては数字を丸めさせて頂いています。

横田 構成員

下曽根駅の乗降客数の目標値はどのように設定されたのですか。

事業課

乗降客数の目標値については、空港跡地が開発され建物がすべて立地した際に、ここで発生する交通量の需要予測を行い、駅利用者が約9百人増えると想定しました。そして、現時点での整備率が概ね6割であるため、今回整備計画の変更手続きを行っていますが、最終的な目標値を約5百人増に設定しています。

牛房 構成員

目標3の「環境施設面積」には、環境保全地区の緑は全く入っていないのでしょうか。

事業課

今回の都市再生整備計画における環境施設面積の目標値は、市道223号線沿いの緑の軸線と呼んでいる緑地の面積で、環境保全地区は入っていません。

牛房 構成員

目標4の「道路整備率」の目標値についてですが、事後評価原案4頁の様式1 - を見ると、10.3%から8%に下方修正しており、変更理由は書かれていますが、もう少し詳しく説明していただけないでしょうか。

事業課

用地買収が難航し計画期間内の完了が困難になった道路事業を整備計画から削除した結果、分子である道路の面積も減った関係で最終的に8%になっています。

寺町 座長

12頁の指標3「改善方針」について、先ほど当初の目標は達成できなかったが、旧空港跡地内の緑地は15,000m²増えているという説明がありましたが、結果として緑地面積が増えているのに「都市空間の形成を図るため、引き続き、緑地等の整備を促進していく」というのを、ここまで書かなければいけないのかと疑問に思いました。また、民間の緑地を評価するのであれば、公共施設である道路空間に緑地を整備する意義は何なのかと少し疑問に思ったので、考え方の説明をお願いします。

事業課

今回の計画では、地元の方々の強い要望もあって旧空港跡地内を東西に走る市道223号線にシンボリックな空間として緑の軸線を設けております。

緑の軸線は地区計画に定めるように道路部分は公共が整備し、隣接する産業団地部分は民間に整備してもらうということで、今後民有地側も含めて緑地を整備していく必要があるため、こういう書き方をしています。

寺町 座長

曽根地区の都市再生整備計画に寄せられた8件のご意見の中で、「事後評価の資料が一般市民に大変わかりにくい、もっとわかりやすくしてほしい」というのがあり、国交省のフォーマットで仕方ないと思いますが、これに対する市の考え方「別途概要版を作成しています」と回答していますが、それはどの資料でしょうか。

事業課

お手元のA3の資料です。

寺町 座長

(この資料をみて)文字数が多いというのは、若干アレルギーがあると思いますので、概要版はビジュアルでパッとわかるような形にされた方が良いと思います。また、情報公開をわかりやすくすることは大事な視点だと思いますので、宜しくお願いします。

横田 構成員

今回の計画は道路事業がメインですが、このエリアに道路を整備するということはそこに目標があるからで、今回、大目標と4つの指標がありますが、全体像がどこに向かって行って、その中で現在はここまで出来ているということが、パッとわかる資料があったらいいなと思いました。

また、企業立地も含めてこういう課題があって、ここまで進んでいますとか、今後こうなりますとか、ここは難しいけどこうやって進んでいますとか、大枠で全体像、未来像が見えると現在進めている成果、位置付けも見る人が分かるのではと思いました。

事業課

1枚もので細かい数字は別にして、大きな目標に向かってどんな風に進んでいるのか、また、その目標を達成するためにどのような事業をしているのかを表せるようなものがあって方がより理解しやすいですね。そのあたりは来年に向けて、検討してみます。

横田 構成員

今回の事後評価は企業誘致にかなり左右されるというのが、本音のところだと思いますが、企業誘致は産業経済局、道路の整備は建設局と所管が違うなかで、どのように連携されているのか、また、残された未解決の課題をクリアしていくには、この辺に力を入れていくとか、あるいは、今後の計画はこのようなことがあるとか、もう少しわかりやすく表現した方がといいと思いました。

事業課

産業団地部分につきましては、部署でいうと産業経済局が土地の購入から基盤整備まで行い、道路は建設局、水道は上下水道局と局は異なりますが連携して整備を進めているところです。

企業誘致につきましては、企業立地支援課が自動車産業だけではなく幅広い業種をターゲットに誘致活動を展開しております。分譲の募集要項を見ますと、自動車産業の他、半導体、ロボット、バイオテクノロジー、環境エネルギー、航空宇宙産業、そういった幅広い業種にアプローチをかけています。

寺町 座長

例えば、今のご指摘を13頁のところ、添付資料5 - の大規模未利用地の早期有効活用の残された未解決の課題に、自動車産業だけでなく幅広い業種を対象に誘致活動を展開していく、などを記載した方がいいのではないかと思います。また、私が言うまでもなく、担当しているセクションの方はかなり色々な努力をしていると思いますので、その辺を記載してもいいと思います。

事業課

記載内容を修正したいと思います。

牛房 構成員

13頁の北九州空港移転跡地プロジェクトチームですが、環境保全地区の検討をされるということですけど、環境局がプロジェクトチームに入った方がいいと思いますがいかがでしょうか。

事業課

このプロジェクトチームの中には環境局は入っていませんが、環境保全地区の計画には、これとは別ですけど、建設局と環境局が中心になって、約10haの環境保全地区の整備についてグラウンドや野鳥観察所の整備について検討しています。

牛房 構成員

あと、行政が中心ですけど地元の方、地域の方は入っていないのですか。

事業課

メンバーには入っていませんが、適宜、実施する事業課が地元の方へ出向きまして、必要な情報の提供やご意見を頂いたりしています。

牛房 構成員

医療、生活地区の分譲地にお住まいになる方で、その地域の住民が集まって交流できるような公民館などはつくられるのでしょうか。また、市役所の出張所はあるのですか。

事業課

分譲団地内に公民館はありませんが、近くには曽根出張所等があります。

寺町 座長

今の件について、一般の方の感覚で見たときに、この事業エリアで空港跡地の道路の課題だけを今後の課題とするのは若干違和感があります。13頁の残された未解決の課題の2番目のところも、引き続き緑の軸線をやりますというよりか、緑の軸線と未整備のところを今からやっていきますというのを入れた方がいいと思います。

事業課

環境保全地区の記述は、今後のまちづくり方策では、「曽根干潟と産業団地との緩衝機能や市民の憩いの緑地としての「緑の軸線」等の整備を行う」とし、想定される事業として、緑の軸線の整備と環境保全地区の整備を入れています。

ご指摘の13頁にも、環境保全地区の記述を入れた方がいいかも知れません。

東 構成員

私は一般市民の立場で意見を述べさせていただきます。

今回の事業はインフラが主で、生活している人の視点からすると何をやっているのかわからない、何か道路ができてきているのかなぐらいで、一番わかりづらい部分だと思います。

最終的にこうなりますというのを、ビジュアルで表現できるとわかりやすいと思います。今の時点はここで、将来完成するようになりますというような、時系列でわかればいいと思いました。

また、私は曾根干潟に非常に興味がありまして、若松のビオトープが大変好評で、1年間の来場目標がつい先日、達成されたとありました。曾根干潟もそういう意味で有望な案件になると思いますので、活用する計画があると伺ったので、その計画も将来的にこうなるとビジュアルでわかればいいと思います。

事業課

先程もご意見をいただいたように、まちづくりの目標や将来像など、ビジュアル的な表し方をもっと工夫して、市民の方々によりわかりやすいものを、今後、検討していきたいと思います。

寺町 座長

私も時系列は大事だと思います。インフラは人にとってあって当たり前ですが、この曾根地区のようにインフラの無い所に新しく作るという場合は、ご指摘のように、ある程度最終的なビジョンをわかりやすく表現することが大事で、今の時点を示せば、全体をわかりやすく説明できると思います。

横田 構成員

14頁に市民の憩いの緑地として緑の軸線等の整備を行うとありますが、木を植える以外に市民の憩いとなる他の何かがあるのでしょうか。

事業課

緑の軸線につきましては、今、桜を植えていますので、地元の人が見て憩いを感じて頂くということです。

寺町 座長

憩いの緑地と表現すると、ちょっと座って休憩できるというイメージが出てくると思いますので、表現を改善した方がいいと思います。

横田 構成員

桜が咲くことで憩いがあるなら、具体的なことを記述した方がいいと思います。

事業課

記載内容を修正したいと思います。

寺町 座長

それでは、ご意見がなければ決を採りたいと思います。色々なご意見を頂きましたが、曾根地区の事後評価手続きについて、適切に実行されたということによろしいでしょうか。

構成員一同： 了解

寺町 座長

次に、今後のまちづくり方策についてご説明頂いたことに、妥当であると認めてよろしいでしょうか。

構成員一同： 了解

寺町 座長

ありがとうございました。

それでは、ご異議がなければ以上をもちまして曾根地区の議事を終了致します。

事業課

ありがとうございました。

会 議 録

名 称	北九州市都市再生整備計画事業事後評価検討会
議 題	フォローアップ報告（H22、23年度完了地区）
開催日時	平成24年12月13日（木）
開催場所	北九州市役所 15階 特別会議室B
出席者	北九州市都市再生整備計画事業事後評価検討会 構成員 座長 寺町 賢一（九州工業大学大学院 工学研究院 建設社会工学研究系 准教授） 牛房 義明（北九州市立大学 経済学部 経済学科 准教授） 東 恭子（第10期 北九州ミズ21委員会 委員） 横田きみよ（コンセプトピディア 代表） フォローアップ担当課 建設局 公園建設課（中央公園周辺地区） 建築都市局 折尾総合整備事務所計画課（折尾地区） 環境局 環境未来都市推進室（八幡地区） 検討会事務局 建築都市局事業調整課
フォローアップ報告	フォローアップ報告について （事務局及び担当課より説明） 昨年、一昨年に事後評価を実施した地区のフォローアップについて、報告させていただきます。 フォローアップにつきましては、事後評価の際に、推計値で評価を行っていたものについて、実測値が確定した時点で、確定値に置き換え、事後評価の確認を行うものです。 今回の報告対象は、H22年度完了の中央公園周辺地区、H23年度完了の折尾地区、八幡地区の3地区でございます。なお、H22年度完了の中央公園周辺地区につきましては、アンケート結果の集計が、昨年の検討会后だったため、今年度にフォローアップ報告を行うものです。 それでは、報告に移ります。 先に結論からご報告いたしますと、今回フォローアップを行う3地区につきましては、推計値と確定値に大きな差があったものはございませんでした。 従いまして、今回の報告では、各地区の担当課から、主に、A3横の概要（参考資料）で、指標の状況を説明させていただき、あわせて事後評価以降の取り組みについて紹介させていただきます。 【中央公園周辺地区】 中央公園周辺地区でございます。お手元のA3横の概要資料をご覧ください。 中央公園周辺地区では、3つの目標に対し、3つの指標を立てて、事後評価を行いました。これらすべての指標が推計値を使っていたため、今回、確定値に置き換え、評価の確認を行ったものです。 指標1の環境学習事業に対する参加数は、目標値年間2,000人に対し、評価

時点の推計値が3,010人、確定値3,400人になりました。

指標2の到津の森公園施設利用者数は、目標値年間38万人に対し、評価時点の推計値が39万人、確定値は変わらず39万人になりました。

指標3の市政モニターによる到津の森公園市民の満足度は、目標値50%に対し、評価時点の推計値が41%、確定値44%になっています。

事後評価の方向性は変わっておりません。事後評価時に説明させていただいたとおり、今後のまちづくり方策で鋭意改善に取り組んでまいりたいと考えております。

なお、本地区につきましては、市政モニターで要望の多かったレストランのメニューの充実の要望を受け、平成23年9月から土日祝に移動販売車の導入を行い、来園者のニーズに応える取り組みを進めております。また、到津の森公園第3期計画策定を行い、施設全体の問題点の整理や休憩施設、売店、レストランの見直し等施策の検討を図っていきたいと考えております。

【折尾地区】

折尾地区でございます。お手元のA3横の概要資料で説明させていただきます。

折尾地区では、4つの目標を立てておりまして、4つの指標及び、2つのその他数値指標を立てまして、事後評価を行っております。

指標1のJR折尾駅の1日あたりの乗降客数は、目標30,500人に対し、評価時点の推計値31,850人で、確定値32,871人になっています。

指標2の居住人口は、目標54,000人に対し、評価時点の推計値53,340人が、確定値53,321人になっております。

指標3の児童館利用者数は、目標22,000人に対し、評価時点の推計値27,430人が、確定値24,486人になっております。

指標4の折尾土地区画整理事業施行地区内の老朽住宅棟数は、目標238棟に対し、評価時点の推計値261棟が、確定値257棟になっています。

また、その他の数値指標1の街なかにおける居住人口は、従前値24,159人に対し、評価時点の推計値24,660人が、確定値24,540人になっています。

その他の数値指標2の街頭犯罪認知件数は、従前値409件に対し、評価時点の推計値144件が、確定値152件になっています。

指標3の児童館の利用者数について確定値が推計値を下回っておりますが、目標値を達成していること、また、引き続き児童館の活用による子育てしやすい環境づくりを進めており、事後評価の方向性は昨年と変わっておりません。事後評価時に説明させていただいたとおり、今後のまちづくり方策で、鋭意改善に取り組んでまいりたいと考えております。

現在の状況ということで、今年秋にJR折尾駅仮駅舎の開業及び駅前広場の機能移転を行い、連続立体交差事業の要である折尾駅周辺の高架工事の準備が進んでおります。本事業では、JR折尾駅舎のシンボリックな部材の調査や資料の記録保存など、歴史的建造物の保存活用に向けた取り組みを行っております。

また、新しい折尾駅舎については、地元のまちづくり団体の「おりお未来21協議会」からの要望を受け、市とJR九州で連携して検討を行い、今年の10月に地元のまちづくり団体と北九州市、JR九州が協力して開催したイベント「ありがとう折尾駅舎」において、デザイン案の公表を行いました。現在、この駅舎デザインと調和した駅前広場の検討など、引き続き進めているところです。

今後、鉄道工事に加え、駅周辺の街路事業や土地区画整理事業など本格的に事業が進む中で、駅周辺の商業に関するタウンマップの作成・配布や駅周辺の工事用フ

エンスを活用した絵画の展示など、にぎわいを継続させるための取り組みを行い、早期の事業完了を目指して整備を進めていきたいと考えております。

【八幡地区】

八幡地区でございます。お手元のA3横の概要資料をご覧ください。

八幡地区では、4つの目標に対し、4つの指標を立てて、事後評価を行いました。これらすべての指標で、推計値を使っていたため、今回、確定値に置き換え、評価の確認を行ったものです。

指標1の環境ミュージアム来館者数は、目標値12万人に対し、評価時点の推計値11万6,320人が、確定値10万4,973人になっております。

指標2の省エネライフ実践戸数の割合は、目標値100%に対し、評価時点の推計値100%が、確定値でも100%になっております。

指標3のJRスペースワールド駅の乗降客数は、目標4,500人に対し、評価時点の推計値6,142人が、確定値5,839人になっております。

指標4の居住人口は、目標値31,000人に対し、評価時点の推計値31,993人が、確定値31,702人になっています。

指標1では、確定値が推計値を若干下回っておりますが、事後評価の方向性は昨年と変わっておりません。事後評価時に説明させていただいたとおり、今後のまちづくり方策で、鋭意改善に取り組んでまいりたいと考えております。

なお、本地区につきましては、本年4月に竣工した新日鉄住金エンジニアリングの单身寮に「エンジ村」を整備し、地域の住民とNPO・企業などの交流の場となっています。また、昨年からコンテンツの改修に調整を要しておりました環境ミュージアムについて、本年10月に地球の歴史から地区の中心である東田地区の歩みを紹介する「地球の道」が整備され、環境啓発の拠点として新たな魅力の発信を行っていることを紹介させていただきます。

また、ここには、掲載できなかったのですが、地元の皆様、企業の皆様で色々なものを持ち寄って、シェアというコンセプトで「東田まつり」というお祭りも開かれています。

今後もこのような取り組みを継続して実施して参りたいと考えております。

最後に、今後の手続きについて説明させていただきます。このフォローアップ報告書は、今後、国土交通省に提出するとともに、本市の事後評価のホームページに掲載させていただくこととしております。

以上で、ご報告を終わります。ご質問等がございましたら、よろしくお願ひいたします。

フォローアップ報告に対する意見

【中央公園周辺地区について】

牛房 構成員

福祉公園の利用者が大幅に増えていますが、どういった理由でしょうか。

担当課

福祉公園には管理事務所があり、管理者を募集して本公園を整備後に市内で福祉施設を運営している団体に管理を委託することとなりました。この団体が自らの施

構成員の
主なご意見

設入所者等を定期的に案内しているため、増加につながっていると考えており、市内のほかの公園でも、同様の利用が増えています。

牛房 構成員

分かりました。

【折尾地区について】

(特に意見なし)

【八幡地区について】

横田 構成員

「地球の道」完成以降の、環境ミュージアムの来館者数はどうなっていますか。

担当課

来館者数のデータを持ち合わせていないので、後日回答させてください。
(後日、平成24年度各月の来館者数を回答した)

事務局

ありがとうございました。
これで、フォローアップ報告を終わります。